

平成 24 年 3 月 27 日

## 専門委員会開催報告

専門委員会名	第 4 回「軽水炉に係る基礎基盤研究の検討」特別専門委員会
開催日時	平成24年3月27日(火) 13:30 ~ 16:30
開催場所	電気事業連合会・会議室
参加人数	委員 17 名:河原主査、久語幹事、奥本幹事代理、阿部委員、岡嶋委員、江里口委員代理、佐治委員、四竈委員、関村委員、植田委員、田中委員、中島委員、更田委員、峯尾委員、野口委員、守屋委員、山本委員、他オブザーバー12名
議 事	<ol style="list-style-type: none"><li>軽水炉に係る研究課題の整理について これまでの議論に基づいた研究課題と基礎基盤研究が取り組むべき事項等の整理表が示された。</li><li>基礎基盤研究の現状と課題について 分野毎に整理した基礎基盤研究の現状と課題、保持すべき基盤、原子力機構における基礎基盤研究の現状と課題、実験施設の現状と課題が説明された。</li><li>大学における人材育成の現状と課題について 東京大学原子力国際専攻の教育研究、福島第一事故の反映等について説明があった。</li><li>我が国におけるシミュレーション技術の現状と課題について シミュレーションとモデリングの現状と課題について説明があった。また、シビアアクシデント解析に関する知見の説明があった。</li><li>Executive Summary について これまでの議論の要約案が示された。今後、事務局から電子データを委員等に送り、コメントを集約していくこととした。また、資源エネルギー庁における軽水炉の安全対策高度化のための技術開発・基盤整備の取組について説明があった。</li><li>主な意見等<ul style="list-style-type: none"><li>・基礎基盤研究ではトップダウンとボトムアップの組み合わせが重要。</li><li>・日本では外国から軽水炉を導入したため、基礎基盤研究の出口戦略が明確でなかった。</li><li>・ボトムを支える部分のデザインと共通目的の設定が重要。</li><li>・基礎基盤研究の脆弱化の原因を明確化して対策を施すべき。</li><li>・総合的な基礎基盤研究がフロントランナーになるのを支えるビジネスモデルが必要。</li><li>・シビアアクシデント解析の総合コードは専門家の判断をサポートするのが目的。</li></ul></li><li>その他 基礎基盤研究の弱体化の原因についての整理のため、サブ・コミッティーを設けることとした。</li></ol>
備 考	

平成 24 年 1 月 27 日

## 専門委員会開催報告

専門委員会名	第 3 回「軽水炉に係る基礎基盤研究の検討」特別専門委員会
開催日時	平成24年1月17日(火) 10:00 ~ 12:00
開催場所	電気事業連合会・会議室
参加人数	委員 14 名:河原主査、久語幹事、阿部委員、岡嶋委員、岡本委員、橘川委員、佐治委員、植田委員、田中委員、平井委員、更田委員、峯尾委員、小嶋委員代理、守屋委員、他オブザーバー15 名
議 事	<p>1. 国の政策策定の状況について 久語幹事より、エネルギー・環境会議、原子力委員会、原子力災害対策本部等における政策検討・策定の状況及び今後のスケジュールについて紹介があった。</p> <p>2. 学会等に設けられた他組織における検討の状況について 原子力学会・標準委員会の宮野委員長より、原子力関連技術開発戦略マップに関するこれまでの取組と、今後の展望について説明があった。</p> <p>3. 軽水炉利用に係る研究課題について 事務局より、安全規制の課題並びに安全研究のあり方と基盤確保の重要性について説明があった。また、産業界からの基礎基盤研究への期待に関する説明があった。久語幹事より、軽水炉に係る研究課題と関連する研究分野の整理について説明があった。</p> <p>4. 報告書の目次案について 久語幹事より、報告書の目次案と、それに沿った委員会での議論の進め方が示され、次回委員会では Executive Summary の作成を目指すこと等が提案された。</p> <p>5. 意見交換 ・安全規制にとって基盤の保持は重要である。 ・分野間連携の希薄化に危惧を感じる。分野横断的に研究することも大事だ。 ・絶対に保持すべき分野はどこか、その技術と人をどう保つべきかを議論すべき。 ・セキュリティの観点が弱かったと思うが、公開できるのか疑問だ。 ・基礎基盤研究には「想定外」の部分を少なくしていく役割もある。 ・基礎基盤研究は、ニーズに応えるだけでなく、自発性も重要だ。</p> <p>6. その他 特になし。</p>
備 考	